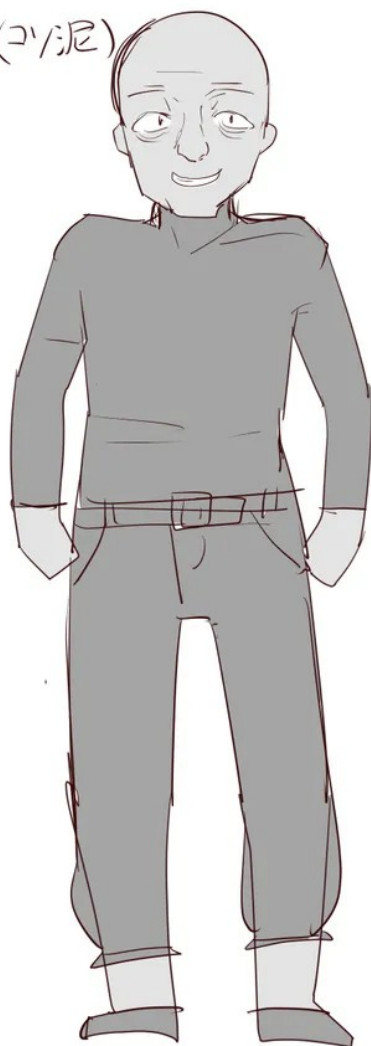


ゲッパル
(コ/泥)



ユーリ
(弟子)



リーナメルト
(先生)



遺跡では見つかりま
せんでした明日もう
一度行ってみます

他の心当たりを探さな
ければいけませんね…

俺は被害者なんだぞ？
言い方ってもんがあるよなあ

お前らが不用意に危険な
ものを置いておくからこんな
身体になっちまってさあ

おいつまでこんなひ弱な
身体でいなきゃいけねえんだ

すみませんわたしの
体でご不便を…

先生の体に
触るな！

この身体でかくて邪魔だから
当たっちゃうんだよなあ

それはお前が
勝手に…！

ゲッパルさんもわたしの
身体嫌ですよね…

9日前のこと...

これは金になりそうだな

いけませんそれに触れてはっ！



解析中だった未知の魔道具が
ゲッパールによって起動されてしまい

ゲッパールの魂
は先生の体に



先生の魂は魔道具
に囚われてしまう

元の体に戻るために協力
しあうはずがこいつは先生の
体を楽しんでいるような...

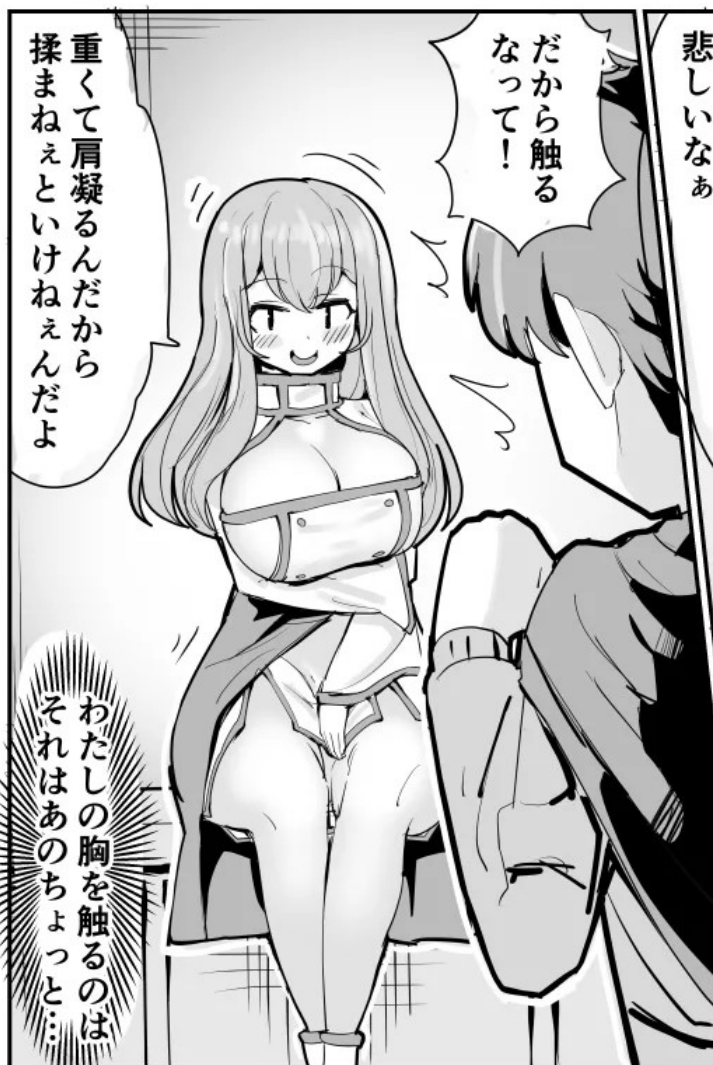
俺の自慢の胸板とムスコが
こんなナリになっちまって
悲しいなあ

だから触る
なって！

重くて肩凝るんだから
揉まねえといけねえんだよ



わたしの胸を触るのは
それはあのちよつと...



ある日のこと

あれ？
開いてる

ゲッパルの体を魔術回路で
維持している部屋だ

僕と先生以外は
入れないのに

!?

オナニーもいいけど
やっぱセックスだよなあ♡

俺の身体生きてるから
勃起してくれるしまあ射精は
できないみたいだけ♡

セセックス!?



女の身体はいいぞ
男の数段気持ちいいんだ♥



おっとバレち
まったか

せっ先生の
体でっ!!



なっなんでっ!?

ユウリ?



先生の
体でっ!?



先生っあいつに自由を
与えず拘束しましょう!
信用できない人間です!

なにがあつた
のですか?



またある日

調査はどうですか
進展はありましたか…？

先生っ

柔らかいっ
いい匂いっ

ヌヌ…

お前の小ささ
じゃ奥まで届か
ないぞ♥

先生っ

ああ
そうだ

俺の身体を維持する
魔力が足りなくなってまーす

蓄積魔力は十分に
あったはずですが…
ユーリそうなのですか？

!!

違いますっ
こいつが工房を無駄にっ



いつしか先生の声は
聞こえなくなっていた

お前また勝手に外
出歩いてっ

こんなことされて俺に指図
できる立場なのかよ？

ここでやめても
いいんだぜ♡

あぁっ…

クイ
クイ

そっ
それは…

この若くて健康的で
魔道の才のある身体で
俺は第二の人生いいや…

わたしの新しい人生
謳歌するわよ♡

邪魔な魔道士様には消えてもらって
この身体は完全に俺のもの♡

ガキはこの身体でお願い
すれば何でもやるし
都合のいい手下ができた

くふふ♡

酒場にて



「綺麗なお姉さん
俺と飲まない?」



中身男 ←

「男になんて興味
ねえっつの」



「ひゃあ、あつ
お客様っ!」

「だってわたしが好きなのは
可愛くて若くて肉付きの良い
女の子なんだから♥」

「ごっ困りますっ
お客様あつ♥」

（思ってたのと違う
けどなんだろう良い
もの見れたきがする…）

「この子お持ち帰り
させてもらおうわね♥」

「ええっ!」

「麗しのリーナ先生が
帰ってきたぞー」

「お前また
飲み歩いてっ!!」

「よし寝たな
それにしても…」

「すう…すう…」

男の時のゲッパルは
大いびきをかくが先生の
肉体なので可愛い寝息

「眠っていると元の
先生のままみたいだ……
先生お美しいです…」

「先生の下着…うっ
まだ起きないよなり?」

「先生は僕だけ
のものなのにっ」

「ふぁ……♡」



「んっ♡」

「あっ♡くるっ♡」

「!?」

「イクっ♡」

「イクうっ♡」

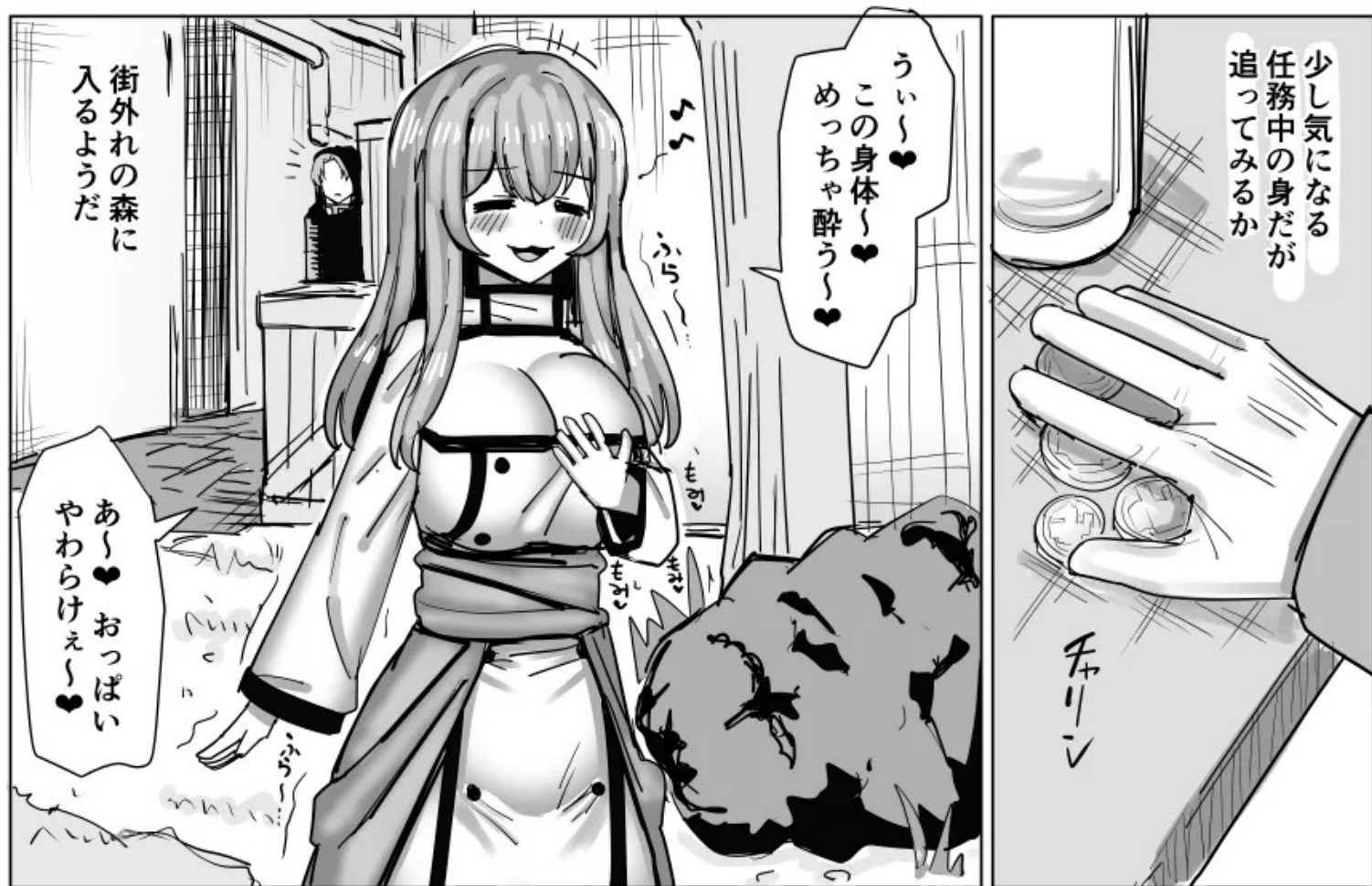
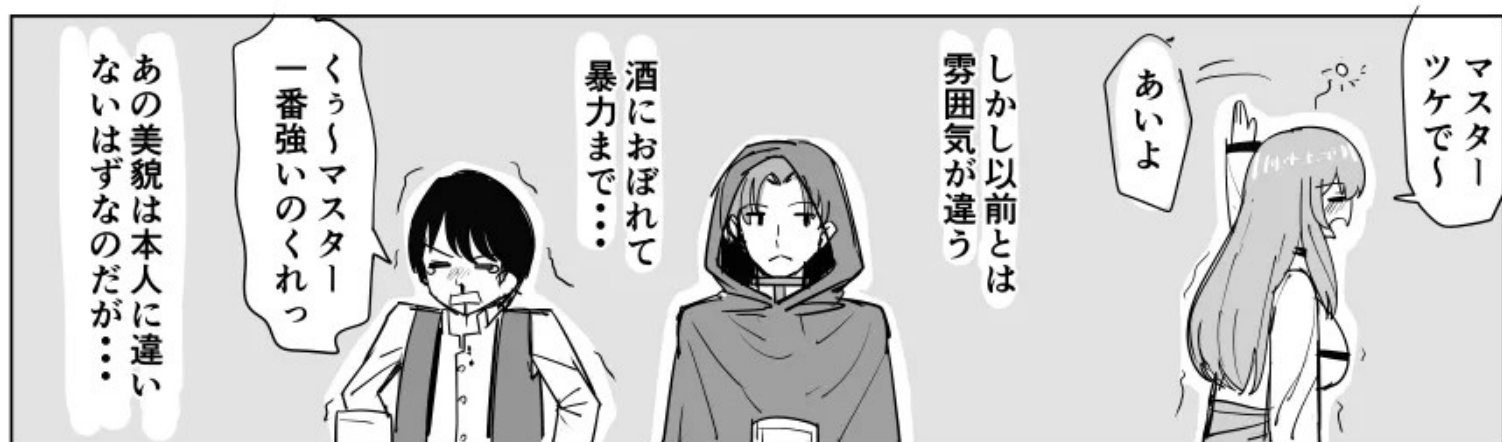
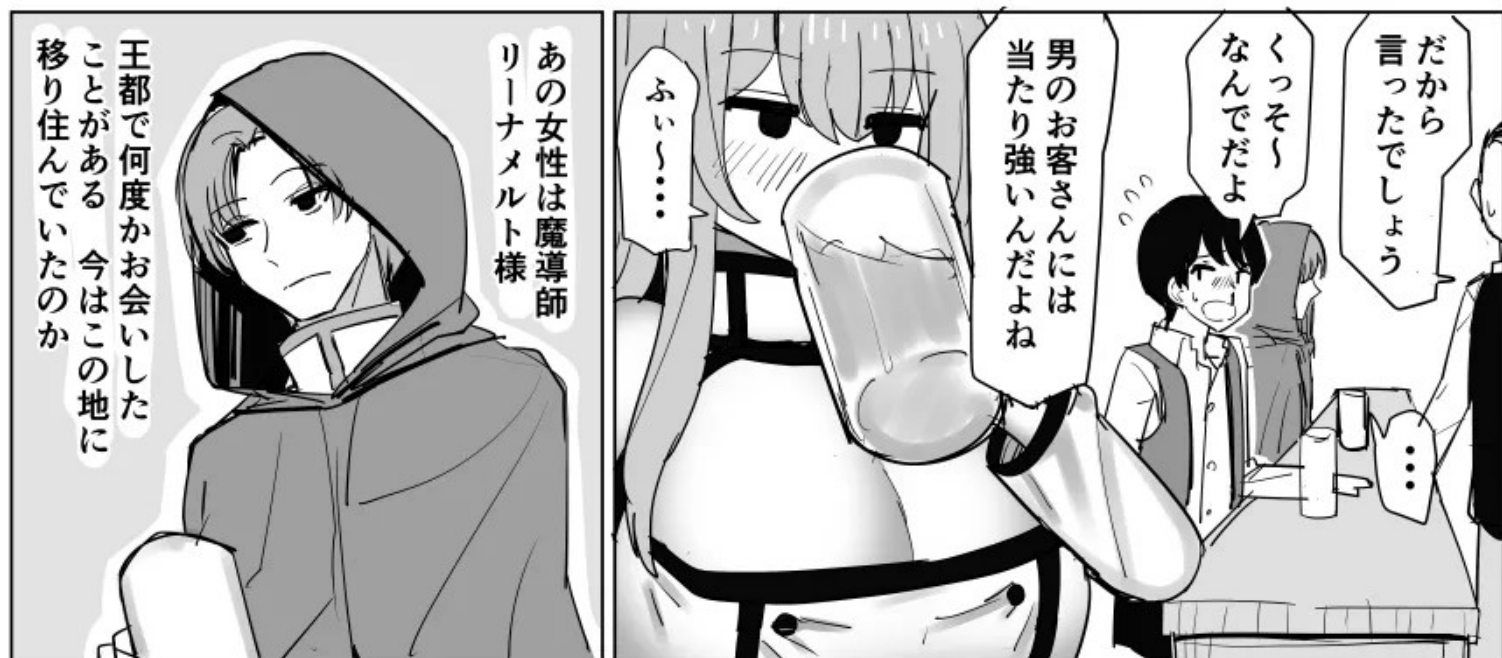
「イきゅうっ♡」

「女って無限にイけるの
最高だ♡もう二発しよ♡」

「先生っ先生っ」







!?

あー♡
めっちゃでるうー♡

女のしょんべん
きもちいー♡

はあ♡
すっきりした

めんどくせえけど
帰るかあ

なにをやっ
て
いるんだ...

これが今の
リーナメルト様
なのか...?

彼女がどんな人であっても
私には関係ない事だが

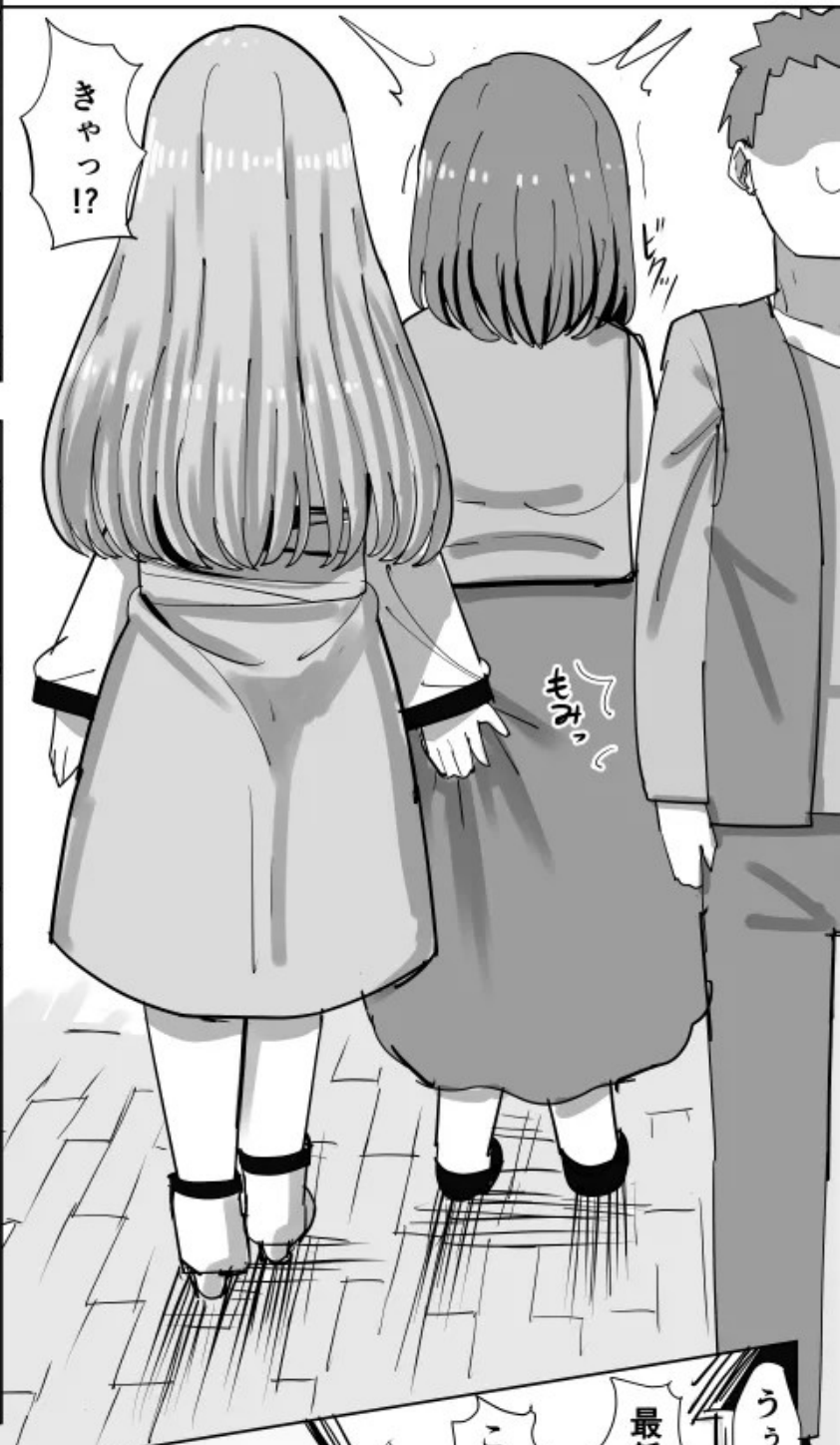
もう少し
追ってみよう...

お前先生の体で
また酒場に行っただろっ!!
勝手なことするなよっ!!

あーもう
仕方ねえだろ

俺だって勝手にこんな
身体にされて自由奪われて
るんだからよお

あれは弟子だろうか?
いや師弟関係の
会話ではないな...





俺がこの身体の
魔法とか使えたら
もっと楽しめそう
なのになー

この身体どんどん
気持ちよくイける
ようになってるぜー♥

あー♥
幸せー♥



おい小さすぎて
子宮まで届いて
ないんだが?

これなら別の
男と...

それは
絶対だめだっ!!

俺頑張るからっ!!



まったく情けねえ
乳首でイくかあー

先生っ



はあー気持ちよく
ねえんだよなあ

先生っ

先生っ



なんだこの記憶は
俺じゃないぞ…？

そうかこいつの記憶
リーナメルトの全てを
俺は知ってる…!!

俺がリーナメルトとして
生きていけるってことか

あのガキに頼らずとも
一人でやっていけるぜ



今日から俺が真正銘
美人で天才な魔導師の
リーナメルトだあーっ!!

やはりリーナメルト様の
姿をした別人なのか…？



記憶の通りに動かせば
魔法も使えるぜ!!

この身体と能力を
手に入れた俺は無敵だっ!!

私の任務はこれで終わりだな
公爵様へ報告しなければ

リーナメルト様のことは
気になるが…私が関与すべき
ことではないものだ

あ

シュトラウス男爵
ですよ？

わたし
リーナメルトです

ええ…

覚えていますか？
公爵様のお屋敷で
お話しましたよね

そのあと王都で
何度かお見かけ
したことがあります

それでは
ごきげんよう♪

ふんふん♪

これは私の知っている
リーナメルト様そのものだ

まさか…
二人いるのか？

END

「ういっ♡
飲んだっ♡」

「俺を舐めてた
あのクソイケメンに
奢らせてやったぜっ♡」

「俺がゲッパール様だとは
知らずにおっぱい見て
デレデレして
キモかったなっ♡」

「うひいっ♡」

「美人だから毎日タダ酒
飲めるのサイコっ♡」

リーナメルトの
身体で飲み歩くゲッパール



酔っ払って無防備な姿
おっぱいこぼれそうだし
パンツも見えてる

「うん♡」

「ひっ♡」

「えへへっ♡」

リーナメルト先生の体を心配する弟子のユーリ

「酒くさっ・・・」

「こいつまた先生の体で勝手に酒飲んで・・・」

毛布を
かけにきた

「酔っ払っても先生はお美しい・・・いや騙されるなこいつは先生じゃないんだ」

「んっ♡
おっぱいかゆいっ♡」

「さむいかもっ♡」

「ゲッパル盗みを働くような男先生とは真逆の存在なんだ!!」

「あ♡」

「いいのみつけっ♡」

!?

「あったかっ♡」

8時間
このままだ

「あっ
あぁ・・・」